

2020 年本屋大賞ノミネート 10 作



「本屋大賞」は、新刊書の書店で働く書店員の投票だけで選ばれる賞です。過去一年の間、書店員自身が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票します。数ある本に関する賞の中でも、注目度の高いものです。4月7日の大賞発表前にノミネート作品を読んで、受賞作品を予想してみませんか？

ノミネート作品（作品名五十音順）

『線は、僕を描く』	砥上裕将	講談社
『店長がバカすぎて』	早見和真	角川春樹事務所
『夏物語』	川上未映子	文藝春秋
『熱源』	川越宗一	文藝春秋
『ノースライト』	横山秀夫	新潮社
『むかしむかしあるところに、死体がありました。』	青柳碧人	双葉社
『ムゲンのi』	知念実希人	双葉社
『medium 霊媒探偵城塚翡翠』	相沢沙呼	講談社
『ライオンのおやつ』	小川糸	ポプラ社
『流浪の月』	凧良ゆう	東京創元社

全国図書館を使った 調べる学習コンクール・優秀賞

市の入賞・入選作品 39 点を全国コンクールに出品しました。全国応募総数 116,554 作品の中から、**宗像中学校 2 年の今井更蒼さん**が『トイレについて調べたら、今の社会が見えてきた！（さまざまな視点からのトイレ研究）』で**優秀賞（読売新聞社賞）**を受賞しました。2月22日に東京で表彰式が開催されました。作品の複製を宗像ユリックス図書館 2 階に3月31日まで展示しています。

ピックアップ

『ライオンのおやつ』 小川糸 ポプラ社

一人暮らしの海野雫は、病と闘っていたが、医師から余命を告げられる。最期の時間を過ごす場所として雫が選んだホスピスは、「ライオンのいえ」。そこでは毎週日曜日に、入居者がもう一度食べたいと思うおやつをリクエストできる「おやつの日」があった。

